

特集2
副教材
活用法

「グローバル人材」育成のために



太田 伸子

■高専と「グローバル人材」

本校では20年以上にわたって、毎年、全新入生用教材として『カラーワイド 英語百科』（以下『英語百科』）を利用しています。その背景と使用状況の一部をご紹介します。

工業高等専門学校（以下高専）は大学・短期大学と並ぶ高等教育機関として創設され、高専制度は昨年50周年を迎えました。学生は中学校卒業後に高専に入学し、5年間の本科を終えると準学士を取得します。さらに2年間の専攻科を修了すれば学位授与機構から学士の認定を受けます。「楔形教育」により、本科1年生から、一般科目だけでなく専門学科の授業や演習があり、5年生で卒業研究発表を行います。本科卒業生の半数は国立大学に編入し、半数は就職します。企業からの信頼を得て、就職率100%を維持しています。また筆者の高専はJABEE（日本技術者教育認定機構）の審査を受け、世界で活躍するエンジニアを育成する教育機関と認定されています。

これらの特徴と背景から、本校では、国際的視野を持つ「グローバル人材」育成の取り組みを行っています。たとえば、本科1年から5年、および専攻科1年から2年までの一貫した英語教育システムを構築して、学年ごとの到達度試験（TOEIC Bridge IP、TOEIC IPなど）を実施、ESP（English for Specific Purposes）の教材や談話分析関連教材の利用、学生によるプレゼンテーションなどを行っています。

■『英語百科』の利用

上記の取り組みの一環として、『英語百科』を

使用しています。自学習教材として各学生に個別に活用させていますが、授業においても不定期に利用しています。

教材利用は、主に低学年1、2年生（高等学校1、2年生と同年齢）の学生を対象としています。が、上級学年でも、さらに卒業して社会に出ても、参考になる有効な資料として保存するように、助言しています。

《活用例1》 環境問題で

第1章「地球環境を知ろう」は特に低学年への環境問題の導入に便利です。

本校では現代GP（文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム）や高専改革推進経費事業の採択以来、「国際的視野をもつ環境配慮型人材育成システム」を運営しています。エンジニアは特に「グローバルな環境配慮の視野」が求められます。高専の全国的なコンテストとしては「高専ロボットコンテスト」が有名ですが、他に「プログラミングコンテスト」、「デザインコンテスト」、「英語プレゼンテーションコンテスト」があります。各コンテストでも環境問題が重要なテーマとなっています。本校は英語プレゼンテーションコンテストのプレゼンテーション部門、スピーチ部門で全国優勝（2008年、2010年、2013年）するなど学生が活躍していますが、これらの学生が選んだテーマにも環境問題が含まれています。

《活用例2》 留学生とともに

第3章「近隣諸国を知ろう」は異文化・多文化・他文化理解の教材として有効です。

本校には国費留学生が3年生から5年生にかけ

てそれぞれ3年間在籍しています。学生のうち約280名は寮で生活していますが、同じ寮で留学生も生活しています。また学年制をとっているので、留学生は一般学生と全く同じように、同級生として「クラス」に在籍しています。したがって、高専生と留学生のかかわりは、大学生と大学に在籍する留学生よりも、さらに密接な環境であるといえます。留学生はウガンダ、ラオス、マレーシア、インドネシア、モンゴル、フィジー、カンボジア、ミャンマー、ベトナムなどからの非常に優秀な学生です。授業内のかかわりだけでなく、留学生講演会その他の交流も行っています。



留学生講演会

《活用例3》 国際交流会で

本校では「世界英語」の観点でさまざまな国からゲストを同時に複数招く「国際交流会」を年に3回開催しています。留学生がゲストの会もあります。



国際交流会

第6章「11 カタカナ語」「15 ボディーランゲージ」、および第7章「8 日本を英語で紹介する」は、国際交流会で学生たちが経験する困難な点に関連しており、発信型の英語技能にも重要な

項目で参考になる内容です。

また、「異文化理解 1～6」は非常に示唆に富んだ内容で、授業でも特に詳しく説明しています。

《活用例4》 英字新聞とともに

第7章「5 英字新聞の読み方」は、具体的に新聞記事の構成が説明しており、わかりやすい参考資料として活用しています。

英語の授業の初めに毎時間、「カレントトピックス」として、英字新聞のその時の代表的記事について見出しを中心に紹介しています。英語の学習と日常生活との関連性を実感させることが目的です。また prior knowledge として母語である日本語ですでに理解している記事の内容を英語で確認させることは、語彙増加に役立ちます。

■おわりに

政府は2003年に「英語が使える日本人」を、2008年に「留学生30万人計画」を、2012年に「グローバル人材育成戦略」を発表しました。また今や英語は、EGP (English for General Purposes) のみならず ESP (前述)、ESC (English for Specific Cultures)、EIL (English as an International Language) などの観点が求められるとされていますので、『英語百科』の教材としての役割はさらに大きくなっていると言えます。なお今後は、実験報告書、論文の書き方、プレゼンテーションのしくみなどの章も加わるとさらに便利です。インターネットで多くの情報が得られる時代ですが、手元ですぐに読める書籍の形態の教材の役割はこれからも重要であると思います。

高専は国際性をもった人材育成が特に求められている教育機関の1つです。各取り組みの指導法や『英語百科』の活用法をさらに工夫し、「グローバル人材」育成に努めたいと思います。

(おた のぶこ・石川工業高等専門学校教授)